

研究課題名	レナリドミドによる皮膚障害に対する脱感作療法に関する後ろ向き調査
研究責任者(職名)	薬剤科 杉 富行 (薬剤師)
実施責任者(職名)	薬剤科 杉 富行 (薬剤師)
研究期間	2020 年 7 月 1 日 ~ 2022 年 3 月 31 日
研究目的と意義	<p>多発性骨髄腫の治療で使用するレナリドミド (商品名: レブラミド) の副作用の一つに皮膚障害があります。レナリドミドによる重篤な皮膚障害が出た場合にはレナリドミドを中止する必要があります。そこで当院ではレナリドミドにより重篤な皮膚障害が出た際に、レナリドミドを継続して使用できるよう、脱感作療法 (薬剤を少量ずつ服用し、体に慣らしていく治療) を行っています。しかしながら、脱感作療法には簡便な決まった方法がないのが現状です。</p> <p>この研究では当院で脱感作療法を行った方のデータを集め、有効性や有害事象、治療スケジュールについて検討し、日本の診療に合わせた脱感作スケジュールを作成することを目的としています。研究結果によって、患者さんにもわかり易い脱感作スケジュールを提案し、医療スタッフも治療の間違いを大きく減らせると考えております。</p> <p>この研究は、研究目的、研究方法などについて、当院の倫理委員会で十分に審査されたものです。</p> <p>患者さんの診療録や検査データを用いますが、個人名、住所などは完全に匿名化され、個人を特定することは不可能になっており、患者さんご自身に不利益が及ぶことはありません。今後のレナリドミドの治療を受ける多くの患者さんの将来の利益のために行われている研究ですので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。</p>
研究内容	<ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さま <p>永寿総合病院血液内科にてレナリドミドの脱感作を受けた方 (約15名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●利用する情報 <p>上記調査対象の方の診療録から、治療歴、血液検査データ、薬剤投与状況、副作用所見などを中心に調査を行います。</p>
問い合わせ先	<p>【研究担当者】</p> <p>薬剤科 杉 富行 (薬剤師)</p>